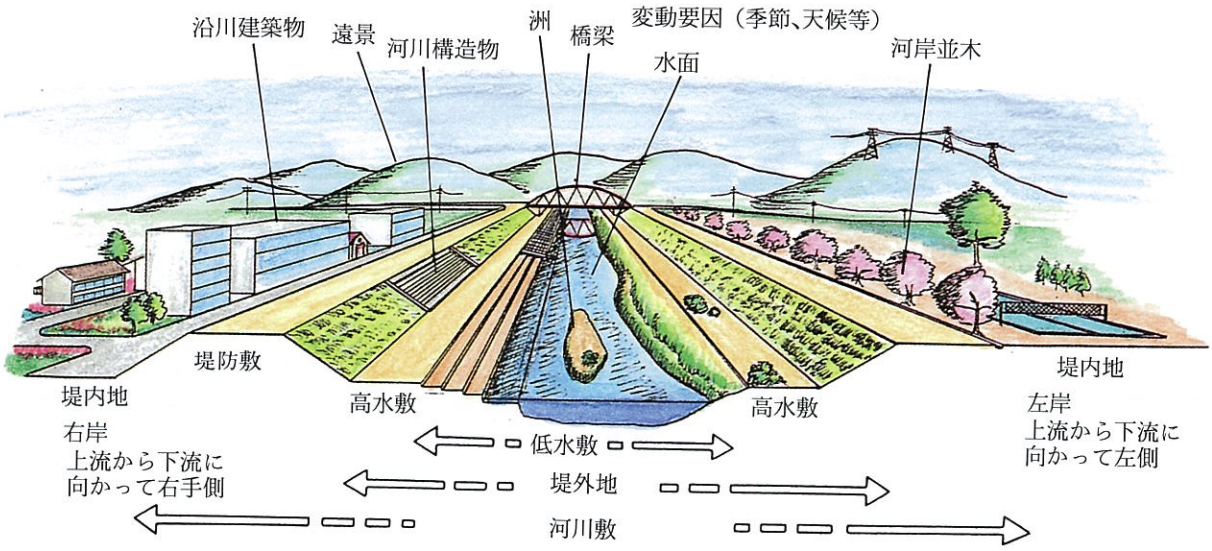
3　河川・水路

3．1　河川・水路の景観について

河川景観の構成要素

河川を中心とした水辺の空間（河川空間）によってできあがる景観を構成する要素には多彩なものがあり、その特徴は以下のように捉えられる。

①河川敷と沿川地域に分けられる。
②河川敷内部はおよそ平坦な要素ばかりであるが、例外的なものは橋梁に代表される横断要素である。
③自然要素と人工要素が混在する。



河川空間の整備に当たっては、このような多種多様な構成要素を理解して、総合的なバランスの上に立つデザインを施していくことが、魅力的な景観形成につながるものである。

河川空間に特徴的な景観の構図

河川空間に特徴的な空間は、その空間を眺める視点の位置との関係からみると理解しやすくなる。それを大別すると以下のように分類できる。

景観の構図	構図の模式	景観の特徴と景観形成上のポイント
流　軸　景 橋の上などから流れ方向に向かって河川を見る眺め		• 流れの表情に流動感があり、両岸と川の流れが一目で見られ、河川空間を把握しやすい。 • 河川の奥行きが強く感じられる。特にこの奥行き感を印象づけるのは堤防や護岸等の河川構造物である。 • 水際線のわずかな屈曲が実際にはかなり極端に曲がりくねった状態に見えるので、平面図上では注意が必要である。
対　岸　景 流れの方向とほぼ垂直に対岸方向を見る眺め		• 水際線、堤防、河岸の並木、建物のファザード背景の山林などが横長の縞模様として見える。 • 水面の存在が対岸への見えを保証し、人々の活動や沿川の施設などを絵画的に観賞するには適した構図である。 • 奥行き感にとぼしい平板な景観になる。
俯　瞰　景 河川空間外の高い地点から一望のもとにおさめる眺め		• 雄大な眺めであるとともに、地域における河川の空間的位置づけや河川と地域との関わりを再確認させてくれる景観である。 • パノラマ的景観の中で、河川の存在が遠近感やスケール感をはっきりさせてくれる。

河川景観の分類

河川空間は、大きく地形と関連した河川の特徴と沿線の土地利用の特徴とによってその性格を分類できる。

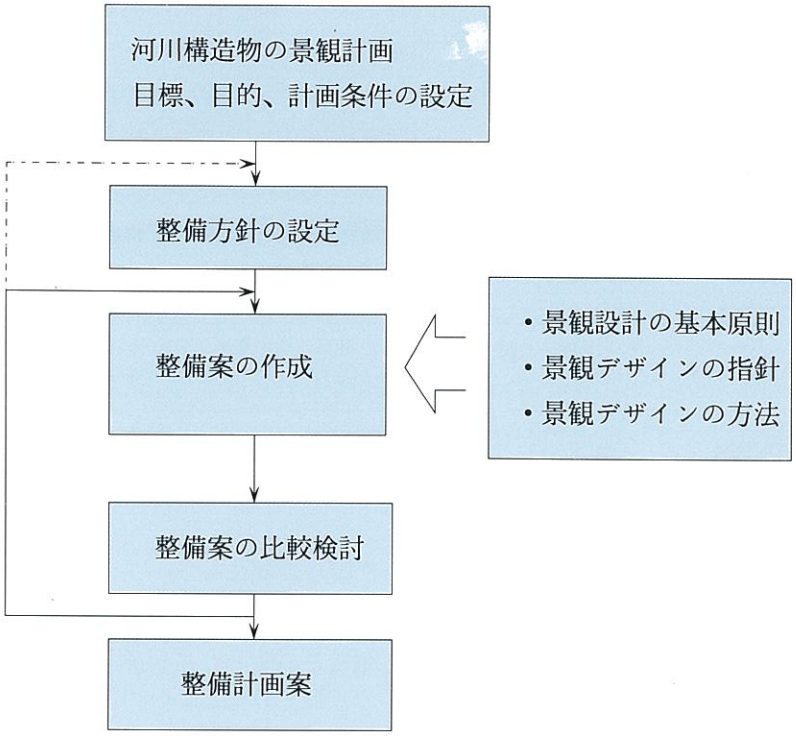
河川景観の類型

位置 ＼ 地形 ＼ 周辺空間		粗（無・数件）← 市街化の程度（小集落）→ 密（市街地）		
		河川空間［情調］	河川空間［情調］	河川空間［情調］
上　流（渓谷・河岸段丘）	山地	渓流 渓谷〔清閑、静か、幽遂、自然な神秘的〕	清水 禊川〔浄寂、寂寥〕	山間小邑〔孤愁、寂寥〕
	平地	細流〔浄寂、優雅、まとまった〕	小川〔浄寂、寂寥、のどかな〕	
中　流（扇状地河川）	山地	山紫水明〔閑雅、静かな、落ち着いた、美しい〕		
	平地	野川 用水〔長閑、のどかな、落ち着いた〕	里川〔のどかな、長閑、落ち着いた〕	都市河川〔快活、華麗、人工的、典雅〕
下　流（自然堤防帯河川 三角州河川）	山地			
	平地	河口〔広々とした、のびのびとした、茫洋〕	大河 大川〔広々とした、蒼茫、茫洋、のびのびとした〕	水郷 水都 運河〔散漫、人工的、明るい、快活〕

資料：「水辺の景観設計」（社）　土木学会編

■景観設計の基本的な流れ

景観設計という作業は河川構造物の景観計画において示された基本的な整備の方向や、目標、計画条件を考慮しながら、設計方針を定め、幾つかの設計案を作成して徐々に具体的な目に見えるかたちを作りあげていく作業である。



景観設計の基本的流れ

河川景観設計の基本原則と景観デザインの指針

河川景観設計の基本原則	景観デザインの指針
川らしさを表現する	・川らしい姿をつくる ・領域感を生み出す ・水辺・流れの表情を演出する
建物らしさを表現する	・人の気配を表現する ・シンボル性を持たせる
周辺とのおさまりに配慮する	・控えめなしつらえとする ・境界部のおさまりを整える ・地域らしさを考える

資料：「河川構造物の景観デザインマニュアル（案）」中国地建

3．2　景観整備の考え方

河川や水路は、古くから地域と深いかかわりを持ち、生活や文化に大きな影響を与えてきている。その整備に当たっては、治水及び利水の機能を確保するとともに、それぞれの地域の特性や自然環境の保全に配慮して進める必要がある。

整備の考え方

1．治水及び利水計画との整合を図るとともに、自然環境及び歴史的景観の保全並びに周辺の景観との調和に配慮した景観の創造に努めること。
2．水辺とのふれあいの場の確保など、地域の人々が水辺に親しめるような整備に努めること。

●特性・視点

- 河川、水路は治水、利水、排水の機能に加え、動植物の生息環境として、また、地域の環境の面からも重要な役割を担っているため、安全性や機能性を確保した景観形成を図る必要がある。
- 自然生態系に配慮した環境をいかに作り出すかという視点が必要である。
- 大中河川においては眺望が開けているため、重要な眺められる対象であるとともに、視点場である。眺められる対象として、また眺める場として景観を演出するとよい。
- 河川空間は住民の憩いの場となる水辺空間として貴重な存在であるため、人と水の距離を短くして人が河川、水路に近づきやすくしたり、散策やレクリエーション活動の場となるよう配慮する。

●構造

- できる限り自然環境を保全できる構造となるよう工夫する。
- 自然地形に応じた流れとなるよう工夫する。
- 河床、水際も可能な限り自然の状態のまま残すよう配慮する。
- 多自然型工法など、自然環境に配慮した工法を積極的に導入する。
- 眺める場あるいは親しむ空間として、河川への親水性を高めるよう工夫する。

●その他

- 護岸、堤防、高水敷等、河川景観を構成する要素については、周辺の景観、河川本体及び他の要素との調和あるいは統一性に配慮する。

赤川ホタル護岸（大東町）
ホタルの成育環境保護

三刀屋川（三刀屋町）
水と自然と人とのふれあいの河川空間

久野川（大東町）
河川プール

多岐堺川（多伎町）
身近に親しめる河川づくり

3．3　設計等の配慮事項

河道

自然景観や生態系の保全にできる限り配慮するとともに、周辺の景観と調和するよう務めること。

多岐堺川（多伎町）
自然石を用いた斜路、緑化ブロック等を採用した多自然型川づくり

護岸

－共通指針　3に準じる。－

意宇川（八雲村）
熊野大社の厳かなたたずまいと調和した間知石を用いた階段式護岸

益田川（益田市）
まち並みの景観にマッチした地場産の石張（鉄平石）と、護岸下部には魚巣ブロックで魚類へ配慮

堤防、高水敷等

堤防の法面、高水敷及び側帯については、治水上支障がない範囲において緑化及び親水施設の整備に努めること。

●堤防

○堤防は河川と堤内地との境界となる。堤内と堤外をうまく関係づけて、堤内と堤外を一体化する工夫が必要である。

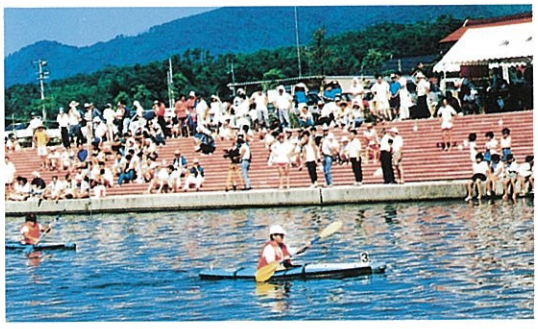
《例》堤防の緩勾配化、法先のラウンディング、小段に変化を、堤内公園側との一体的整備、堤防側帯への植樹によるランドマーク化など

京橋川（松江市）
都市公園内の両岸を緩傾斜護岸として整備し、うるおいと親しみのある水辺空間を創出

出羽川（羽須美村）
背後のキャンプ場と一体となった階段式緩傾斜護岸の整備

○堤防天端は周辺地盤より高いため河川空間や周辺空間を俯瞰する、眺望の開けた場所である。この特徴を生かし、眺望（風景）、鑑賞（花火、灯ろう流しなど）、観戦（河川敷を利用したゲームなど）等のための場所としてデザインすると効果的である。

《例》・眺望の優れた場所では、眺望のための場所を確保する。
・イベントの行われる場所では、緩傾斜化、小段を階段状にする。



天神親水公園（平田市・平田船川）
背後の公園と調和した緩傾斜護岸毎年カヌーレースを開催

素鷲川（大社町）
周囲の松林と調和した自然石河川

○堤防の線形は流水のスムーズな流下という観点から、なめらかな線形で連続しているため、堤防天端は連続的で長大な構造物となり、大きい、のどか、自然、単調などの印象を与える。そのため、このような一様、連続的な景観に変化を持たせることも配慮する。

《例》・堤防に設けられる坂路、階段等の活用
・既存樹木の保全や、余盛り部への植樹

江の川（江津市）
堤防小段に設けられた階段状の観覧席 快適な視点場空間の創出

久美川（五箇村）
古くからの松を残して護岸整備

○堤防は連続した斜面が景観的に目立つ存在であり、斜面の演出は景観的な効果が大きい。
《例》・植栽、植生を活用した季節感の演出
・かつての水防林等の保全、再生

五衛門川（斐川町）
堤防に咲いているかすみ草

赤川（大東町）
既存の欅を残して護岸にアクセント

●高水敷
○堤防と低水路に挟まれた空間で、堤防を流水から保護する役割とともに、緑地や公園として利用されるなど都市部では貴重なオープンスペースとしての役割をもつ。
○高水敷は一般に広く平坦なため、単調になりがちである。高水敷空間を適度に区分し、空間相互を違和感なく結びつけることが望ましい。
《例》・いくつかの高さの変化をつけ、起伏を穏やかに屈曲させることにより、居心地の良い空間になる。
・平坦で単調となりがちな高水敷への植栽は空間を区分し、居心地感を高める上で有効である。
・高水敷上のくぼ地の水たまり、支線合流部、水門等の堤外水路等を利用し、水を生かした空間の区分を行う。

○シンボル性の高い樹木の植栽はランドマークとなる。重要となる視点位置を定め、そこからの眺めがもっとも景観的におさまりやすい位置に植栽する。
○既存生態系の豊かな場所では、園路や観察舎などを設置し、エコロジカルパークとして活用することも考えられる。

○高水敷に草花や樹木を植栽し、植物が有する四季折々の表情をうまく引き出す。

神戸川（出雲市）
河川内に広がる美しい菜の花畑

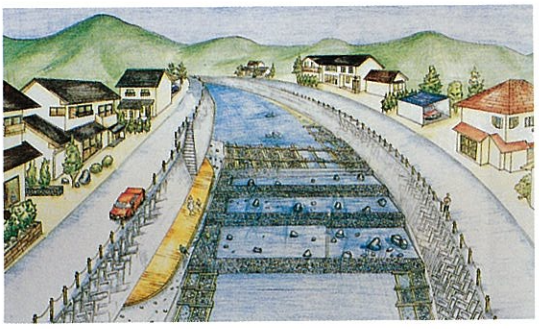
意宇川（八雲村）
周辺住民の憩いの場となっている親水護岸

落差工、堰

構造、形態及び素材については、できる限り自然景観との調和に配慮するとともに、適切な魚道を設けるなど、魚類等の生態系に配慮するように努めること。

- 堰上流川の湛水面と下流川の流水面を対比して、美しい水の表情を作り出す。
  そのため、落差工や水叩きの断面形状を数段に分けるなどの工夫をする。
- 堰と水の表情を見て楽しむために堰周辺の堤防や橋詰めに眺望スペースを設置する。
- 堰の美しい水の表情は多くの人々を引きつけ、各種の川遊びを作り出す。これらの活動利用に配慮して、堰や堰周辺の護岸などの形状を考える必要がある。

益田川落差工（益田市）



頓原川落差工イメージ（頓原町）

神戸川白枝付近（出雲市）
落差工、魚道工
上下流で水面の変化が豊か